

## ◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 自然環境観察会

26A-23

代表者：代表理事 平井 一男

URL : <https://nature-garden-walk.jimdofree.com>

### 1. 活動概要

都市近郊の大宮台地北部に「いやしの生物」の回復を目指し、農地や庭の隅に生態補償地「緑のオアシス」（生態補償地）を設け、昆虫、クモ、野鳥などの温存を目指した。成果は、自然観察会、環境学習、ワークショップ、広報誌で公開した。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

(1) 定例観察会：各地の緑のオアシス（3～12月）で昆虫類、クモ類、鳥類の観察と保全を行った。

(2) 生息地管理と環境学習：

緑のオアシス冬の管理、春の子ども観察会、市役所主催環境パネル展・講演会（6月、10月）、その他、県活セ夏のフェスティバル、子ども秋虫観察会・標本づくり、環境学習支援を積極的に行った。秋には埼玉未来大学2学科のフィールドワークを応諾し、農村オアシスで講義した。

調査・保全には1～10人参加、観察会・講習会・展示会では5人～200余人参加した。



1月冬の管理と野鳥観察 3月子ども自然観察会 6月環境パネル展 10月環境パネル展講演

### 3. 活動の成果

①前年同様、上尾（都市）と桶川（農村）の2か所の「緑のオアシス」に餌用寄主植物（ウマノズクサなど）および蜜源を植え、観察した。農村ではジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、トンボ類、クモ類などが定着した。鳥類ではエナガ、モズ、チョウゲンボウなどを観察した。都市ではタチヤナギ、ユキヤナギ、ダイオウグミなどで、カマキリ類、クモ類を保全し、ウメなどでカラ、ジョウビタキ、ツミなどを観察した。

②都市と農村の「緑のオアシス」の2020年～2023年の4年間の観察で全13目330種の昆虫、クモ類を観察した。種類ではアゲハ、タテハ、キマダラカメムシなどが多く、分類目ではチョウ目、コウチュウ目、カメムシ目、ハチ目、ハエ目、クモ目、トンボ目などが多かった。その中で10目125種（全種数の38%）が保全候補に選定された。うちチョウ類、テントウムシ類、クモ類など優占種について保全活動を継続する。

③成果はHPおよび広報誌-18（2024年3月発行）に掲載。

### 4. 今後に残された課題

- ①緑のオアシスの蜜源植物の植栽、除草、肥培を続け機能的生物多様性を安定させる。
- ②各オアシスの生き物調査を続け、データベース化と公開、環境学習支援を継続する。